



ゆうメール



青峰同窓会

会報
2021年号



東京「国立競技場」

INDEX

会長挨拶……………1	新任教員挨拶……………7
学生主事挨拶……………2	■ 松岡 信之(教養教育科)
卒業生からの便り……………3	2020年度 会計報告……………7
■ 城 嘉宣	お知らせ……………8
■ 本間 八重	■ 鈴鹿高専は
退職教員挨拶……………5	皆さんのUターンを支援しています
■ 兼松 秀行(材料工学科)	
■ 小林 達正(材料工学科)	

誌名
青峰同窓会会報

発行日 2021年8月
発行 国立鈴鹿工業高等専門学校 青峰同窓会 広報委員会
〒510-0294 鈴鹿市白子町 TEL059-386-1031 E-mail:almn@suzuka-ct.ac.jp



ご挨拶

青峰同窓会 会長
小手川 智
 (42C卒)

同窓会会員の皆様におかれましてはご健勝のこととお慶び申し上げます。昨年4月に1回目の新型コロナウイルス感染症非常事態宣言が発出されて以来、今年1月、4月と繰り返されてその後延長され今日(7月)に至っております。三重県においても5月9日～6月20日まで「まん延防止等重点措置」が実施されました。この間皆様におかれましては職場や地域で様々な制約を受け自粛生活を強いられていることと存じます。4月からワクチン接種が開始され私自身も2回の接種を受け、やや安堵しております。ワクチン接種が進んでいけば感染者や重傷者が減少に転ずるものと期待しております。コロナ禍のもと卒業生の交流も中止、延期が続いております。恒例のOBゴルフ親睦会も昨年春、秋、今年春と3回中止となりました。このような事態が早く解消されることを願っております。

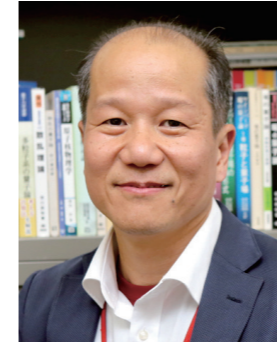
7月2日にビッグニュースが伝えられました、卒業生の衛藤昂君(H23S卒)がリオオリンピックに続き2大会連続で東京オリンピック「走り高跳び」に出場の快挙を達成しました。リオオリンピック後に衛藤君は4年後の東京オリンピックについて、自分では技術的にも年齢的にもまだまだ行けると思っている、と述べていました。コロナ禍で開催が1年延期される中で集中力を切らさず努力を積み重ねて成就されたことに敬意を表します。ご活躍をお祈りします。

前年号で記載いたしました「鈴鹿高専テクノプラザ」について近況をご報告します。卒業生が中心メンバーとなって地域密着型の産学官連携の「ものづくり技術の支援」を目的に平成25年に31社で設立しました。

令和3年3月時点で企業会員数146社(前年度128社)個人会員18名(卒業生が主です、終身会費30,000円)、特別会員13団体で運営しております。企業会員、個人会員ともに現在募集しております。個人会員は卒業生であればどなたでも入会できます。母校応援の一助としてご参加いただければ幸いです。

来年(2022年)は鈴鹿高専が創立60周年を迎えます。記念行事につきましては母校に協力してまいります。概要が決まり次第追ってご連絡させていただきます。その節には皆様のご支援、ご協力をよろしくお願い申し上げます。

最後になりますが、今年も様々な災害(地震、大雨、洪水、土砂崩れ)が多発しております。どうぞ「我が事」としてご留意ください。皆様のご健康とご多幸を祈念してご挨拶といたします。



新任学生主事から 同窓会会員の皆様へのご挨拶

学生主事
仲本 朝基

今年度より学生主事の重任を拝命しました、教養教育科理科教室物理担当の仲本朝基です。どうぞよろしくお願い申し上げます。

思えば私がこの鈴鹿高専へ1998年4月に着任してから、すでに24年目へ突入しております。着任初年度に初めて授業を受け持たせていただいた4年生のクラスに在籍していた板谷先生からこの原稿執筆依頼をいただいたのも何かのご縁というより、必然のような気がいたします。今現在の鈴鹿高専内にも、私の講義を受講された経験のある教職員の方々が少なくとも8名いらっしゃいます。転勤された方や臨時採用期間が終了してお辞めになった方々を含めると、もはや人数を把握できません。これほどまでに長く鈴鹿高専に務めさせていただいていることに、まずは感謝申し上げたいと思います。

当時とは、周りの先生方のメンツもだいぶ様変わりました。当時の理科教室は化学の中村先生を筆頭に、物理担当の土田先生、大矢先生、田村先生というメンバーでしたが、今では当時のメンバーとしては私だけとなりました。教養教育科(当時は一般科目)内でも、当時からご在籍の方々は5名しかいらっしゃいません。専門5学科では合わせて12名です。段々と、着任以前のお話を伺うことができる先輩方が少なくなってまいりました。それだけ私も歳を取ったのだと、実感しております。

そして当時の学生主事が数学の長瀬先生でした。それに続く歴代の学生主事の先生方は、英語の松林先生、土田先生、国語の西岡先生、生物応用科学科の澤田先生、材料工学科の下古谷先生、生物応用科学科の下野先生、そして私となります。歴代の錚々たる顔ぶれの後を引き継いでの大任、こうして振り返るだけで身が引き締まる思いです。

学生たちの気質も、当時とはかなり変わりました。私が着任早々に、英語の中井先生に連れられて初めて行った学生指導が、近隣パチンコ店への巡回でした。それまで大学の閉じた研究室社会しか知らなかった私には新鮮に感じられたものです。当時は喫煙・飲酒・暴力行為など、これぞ学生指導というような典型的な事例が数多くありましたが、最近では全く聞かれなくなりました。その代わりに格段に増えた事例がSNS関係です。そして不登校学生に対する支援の機会も増えました。良く言えば、問題行動を起こす学生たちが以前に比べてかなり減っていわゆる「良い子」たちが多くなりましたが、一方で以前のような元気さ・活発さが見られなくなった気がします。本校だけでなく、世の中全体で「生きる力・活力」が弱っている、と言えるのかもしれない。

最近のこのコロナ禍のせいで、会議の多くがオンラインとなり、忘年会等も中止となって、他学科や新任の先生方との交流も格段に減ってしまいました。そしてなによりも残念なのは、マスク姿が常態化し、学生たちの顔も覚えることができないという、非常に危惧すべき状況になったことです。先日、私の娘の学校で保護者が集まる場がありましたが、着任当時に学生だったお母さんが話しかけてくださって、一気に懐かしい思い出に浸りました。お互いにマスク姿ではありましたが、私もすぐに彼女のことを思い出そうできたのも、現役時代に素顔同士で過ごせた貴重な積み重ねの時間があつたからに他なりません。早く素顔で過ごせる世の中に戻ることを願うと同時に、素顔で過ごし合った同窓会の皆様方と、これからも様々な機会でご縁がありますことを期待しています。

卒業生からの便り

フランスからBonjour!

城 嘉宣 (58C卒)

昭和58年春、鈴鹿高専を卒業して早38年。来年には還暦を迎えます。

2017年11月から キヤノンのヨーロッパ生産子会社でフランス西部にあるキヤノンブルターニュに単身赴任しています。私はキヤノン製品の消耗品を生産し欧州に安定供給するキヤノン事業と、他社の医療機器、産業機器を設計～生産する外販自主事業を担っています。

フランスに赴任したきっかけは、当時の上司の『外国語ができる奴は沢山いるけどそいつが適任とは限らない。仕事がそこそこできる奴は外国語もそこそこできるはずだ。』という妙な誉め言葉とサラリーマンとして社命に従い、挑戦してみようという気持ちでした。ただ、高専時代から英語、独語は全くダメ。外国語と聞くとじん麻疹ができる体質でした。今も苦闘しながら仏語に取り組んでいます。赴任4年目に入りましたが改めて日本の快適さ・良さを感じています。フランスあるあるをいくつかご紹介します。

①トイレが異常に汚い/便座がない。(足腰鍛えられます)

②犬の落とし物が多い(ある人曰く、清掃の人の仕事を取らない → 違うやろ!)

③日曜日はスーパー休み。コンビニがない。(土曜日に買い物忘れると夕食難民になります)

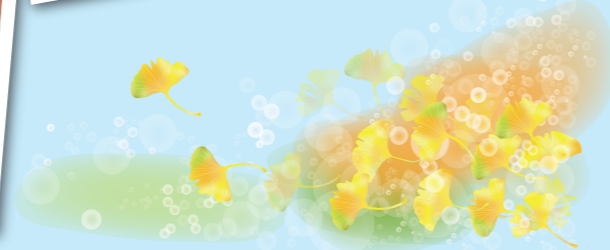
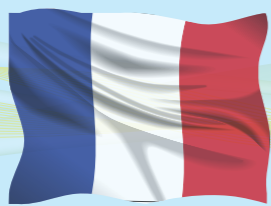
しかし、フランスには良いところも沢山あります。

①積極的に挨拶をする。(知らない人でもbonjour!)
そして我が街Rennesの人は親切。

②小さな街にも美術館がある。(我が街にもピカソの絵がある。感性・デザイン力の源泉!)

③ゴルフが1ラウンド7千円と安い。(ストレス解消のつもりがストレスたまります)

5年間の寮生活と柔道部で培った私の財産『折れない心』でコロナ禍、文化の違いを楽しみながら定年までの1年間を頑張っていきます。今宵の夕餉はオマール海老です。



卒業後の人生

本間 八重 (H7C卒)

早いもので平成7年に卒業し、もう26年が経とうとしています。卒業後も高専との接点は何かとあるもので、今回このように寄稿させていただける機会に大変感謝しております。

私は卒業後、NTT(日本電信電話株式会社)に入社し、技術系分野に従事しながらも、社員の育成や人事に関わる重要なポストに携わり、自身が成長させていただける経験をたくさんさせていただきました。

入社して25年程経った頃、人生の転機が訪れました。2020年に偶然出会った『Mrs QUEEEN』というミセスの世界大会選出のコンテストに出場する事になり(ミスユニバースのミセス版の様なイメージです)書類選考→面接→地方予選を通過して、日本最終16名のMrs QUEEEN グランドファイナリストとなりました。

そこから2度の延期を経て、2021年4月に東京で開催されたグランドファイナル(日本大会)にて、授賞し『Mrs Earth Mrs Asia Elite』ミセスアース世界大会アジア代表として選出され、世界大会への切符をいただきました。世界大会の開催は渡航可能な時期になってからになります。応援していただけただけなら幸いです。

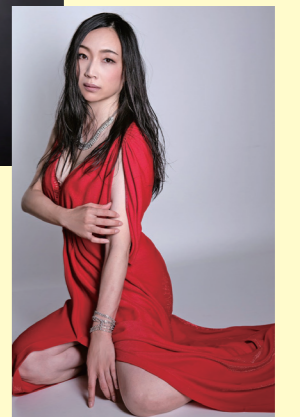
私より先輩の方々、同期、後輩がいて卒業後は、皆様それぞれの道を歩み、それぞれのドラマがあったかと思います。人生は、いくつになっても『今が最高』です。男だから、女だから、もうこんな年齢だから、家族や子供がいるからと夢や目標を諦める必要はないと私は常に思っています。なぜなら私が世界大会への切符を手にしたように、人生は今この瞬間から無限に創造できるからです。

私は2021年4月に25年勤めた会社を退職し、独

立して自分自身の足で歩いていく事を決めました。一歩踏み出せば人生はどんどん変化して行き、たくさんのチャレンジを引き寄せ、直近ではミセスコンテストの世界大会、ラジオパーソナリティとしてのレギュラー番組を持ち、スポーツジムのアドバイザー、占い師、発酵食品料理教室講師など会社員時代では出来なかった沢山の経験をさせていただいております。

これからも健康に留意して、自身の人生を邁進していきたいと思っております。どうか皆様もご自身の心に従い、自分を信じて素敵な人生となりますよう心よりお祈り申し上げます。

※講演などもさせていただきますので、学校、企業様ぜひお気軽にお声がけください。



退職教員挨拶



退職のご挨拶

材料工学科
兼松 秀行

皆様、大変お世話になりました。長らく鈴鹿高専にお世話になりましたが、2021年3月末をもちまして、退職いたします。ご縁があって、平成4年4月1日から、29年間お世話になりました。私は大学の博士課程を終えた後、最初に勤務したのが名古屋大学の工学部でした。4年ほど勤めた後、大阪大学に異動し、2年間勤務し、そして鈴鹿高専の材料工学科に異動してまいりました。大学での勤務は6年程度でありましたが、私は当初研究者としてスタートしたのが大学で、そこでずっと勤め上げるつもりでいました。どういうわけか、何処に行っても長続きせず、鈴鹿高専でもそれほど長く務めることはないであろうと自分でも覚悟していました。根無し草のような人生で、それでも満足でしたが、一緒にいてまわってくれた家内や、そのたびの途上で増えた家族(子供たちや愛犬)のことを考えますと、じつくりと腰を据えて仕事を、と思うことが度々でしたが、まさに鈴鹿高専は私にその場を提供してくれたと思います。その意味でとても鈴鹿高専には感謝しています。これほど長く、自分の仕事人生の大半を占めるようなことになろうとは、全く思ってもいませんでしたし、私の恩師や仲間たちも、また鈴鹿高専の先輩教員たちも皆さんそう思っていたようですが、これが周囲の大半の方々あるいは私自身の予想を超えて、長い長い勤務となったのです。そのことを今思い返してみますと、高専とは全く無関係のところ、それまで生きてきた私ですので、とても不思議な気がします。それはおそらく、鈴鹿高専が私に好きなことをやらせてくださったと言うことが大きな理由なのではないかと思えます。大学で勤務していたときは、駆け出しでもありましたので、当然そうだったのかもしれませんが(修行中の身という意味です)、あれもだめ、これもだめ、といわれて、がんじがらめになっていたような気がします。ところが、鈴鹿高専にかわりましたら、のびのびと自分の道を切り開くことができました。もし鈴鹿高専において、そうでなかったら、

きっと私は、ふたたび飛び出したらろうと思っています。おかげさまで私は、いまでいうアクティブラーニングの一つであるPBLの手法を磨き上げたり、e-learningやオハイオ州立大学との交換プロジェクトを軌道に乗せたり、といった鈴鹿高専あるいは全国高専でも、それまでなかった初めてのことをたくさん実現させました。研究も考えられないくらいの進展を遂げました。それを止めるひと、足を引っ張る人は誰もいませんでした。むしろもっとやってくれ、という感じで応援してもらったように思います。さて、大学にいて、私が同じ規模、またはそれ以上の業績を上げることができただろうか、と自分に問いかけたとき、答えは明らかにNoです。とても無理だったろうと思います。その意味で私の鈴鹿高専における仕事人生は、とても充実したものであったように思います。いい仲間、先輩、友人、に恵まれた28年間であったように思います。

ここでもう一つ、私が長らく鈴鹿高専で仕事を続けることができたもう一つの大事な理由を挙げたいと思います。それは鈴鹿高専の学生です。16歳から20歳まで、さらに専攻科(私が鈴鹿高専でお世話になるようになった翌年に創設されました)を入れると22歳まで、最長7年間の長きにわたって工学・技術を学ぶ学生たちでしたから、余計にそうだったかもしれませんが、教師の言うこと、一言一言が、学生一人一人に吸収されていき、影響を与えていることが、目に見えるようにははっきりとわかりました。これは大学では経験できなかったことでした。とても新鮮であり、同時に、教師としての責任を痛感させ自覚させることでもありましたが、そのような学生たちに恵まれ、教師人生に生きがいを感じることができ、幸福感を感じながら仕事のできたのではないかと、そのように感じています。

日本の将来、世界の将来は若者の手の中にあります。退職にあたって私の願いはただ一つです。私がそうであったように、若い教員の方々がのびのびと、積極的に、新しいことに挑戦を続け、また学生がそれに刺激を受けて創造性に富んだ国際感覚豊かな産業人材へと成長していく、そんな鈴鹿高専であってほしい、この心からの願いを、私の退職のご挨拶とさせていただきます。



定年退職に当たってのご挨拶

材料工学科
小林 達正

この度、31年間お世話になりました鈴鹿高専を定年退職いたします。

このように定年退職を迎えられたのも、鈴鹿高専の教職員皆様からいただいたご支援の賜物であり、心より御礼申し上げます。

私は平成2年4月に、それまで横浜で勤務しておりました三菱重工(株)基盤技術研究所から、本校材料工学科に助手として赴任いたしました。

この平成2年という年には大きな事件がいくつも起こったことを、今でも時折思い起こします。

豊橋技術科学大学において約2週間の情報処理研修を受けているさなかの8月初頭に、湾岸危機が勃発しました。また、10月初頭には、日本のバブル経済崩壊、東西ドイツの統一ということがありました。そして、私の人生においてそれまで当たり前のように思っていたことが崩れ始め、日々漠然とした不安がつきまとい始めました。例えば、いわゆる一億総中流意識の崩壊、老後の生活資金に対する不安などです。

また、昭和37年に一期校として創立された本校においても、様々な変革が始まりました。平成2年の米国オハイオ州立大学工学部との学術交流協定締結、平成3年には当時電気工学科(現在の電気電子工学科)長の父も関わった電子情報工学科設置、平成5年の専攻科設置などです。さらに、平成9年全寮制から任意制への移行、平成16年国から独立行政法人への移管、平成16年JABEE認定、平成29年専攻科改組など、本校の将来に関わる大きなことがありました。

この間、体調を崩して材料工学科を始め多くの方々に多大なご迷惑をおかけしたこともありました。その際、当時学科長であった井上先生や故梶

野先生など、私を助けていただいた先生方には本当に感謝しております。

また、数多くの優秀な学生の方と卒業研究や特別研究をともに行えたこと、その後も時折私の研究室を訪ねていただき、仕事でご活躍なさっていることや生活のご様子を伺えたことなども幸せな記憶として残っています。

さて、長々と思い出話をしてしまいましたが、今後について考えていることを少し申し述べたいと思います。

来年度より2年間は、短時間勤務の教員として再雇用をお願いしたいと思っております。そして少しずつ、両親の介護やその他の家庭事情、私自身の体調等で中断していたことを再開するつもりです。例えば、フルートの練習、家庭菜園や庭木の剪定、そして体が許せば硬式テニスなどです。縁があれば、捨てられたワンちゃんをみつけて、共に暮らす生活を再会したいとも考えています。

研究をするのではないのかと先生方にはお叱りを受けそうですが、これまでとは違った分野、例えば少年の頃に憧れていた考古学や精神的な分野について、自分なりに研究(のようなもの)を始められればと願っています。

最後になりましたが、学生の皆さん。自信を持って、自分のやり方でこれからの困難な時代を切り開いて行ってください。

鈴鹿高専の教職員皆様のご健闘とご多幸をお祈り申し上げ、退職のご挨拶といたします。



新任教員挨拶



着任のご挨拶

教養教育科 講師
松岡 信之

4月より、鈴鹿高専の教養教育科に着任しました。本校では社会科の科目(「現代社会Ⅱ」「技術者倫理入門」「技術経営」「経済学」)の各授業を担当しています。これから技術者として生きていく学生の皆さんが、社会の仕組みや技術者としての倫理観をしっかり身につけることができるよう、日々授業を準備しています。

私の専門は政治学、その中でも日本政治史を研究しています。1956年版の『経済白書』には、「もはや“戦後”ではない」という有名なフレーズが掲載されました。これは、戦後に向かう前向きな意味というよりも、戦後“復興”からその後の“発展”にどのようにしてつなげていくのか、という危機感のあらわれでした。オートメーション化や原子力技術の平和利用を突破口にして、日本は工業社会に舵を切ることになったわけですが、その過程で誕生したのが高専制度です。私の研究テーマと高専がリンクすることに驚きましたが、何かの縁も感じています。どうぞよろしくお願いいたします。

2020年度 青峰同窓会 会計報告

収入の部	摘要	金額(円)
	・2019年度からの繰越金	28,116,134
	・2020年度新入会員(平成31年度 卒業生) 入会金・終身会費(188名)	2,068,000
	・寄付(横田和久様)	10,000
	・預金利息	2,078
	合計	30,196,212

支出の部	摘要	金額(円)
	・会報発行経費	952,366
	・事務費	250
	・先進的エンジニア育成基金寄付(2020年度分)	1,000,000
	支出小計	1,952,616
	・2021年度への繰越金	28,243,596
	その他小計	28,243,596
	合計	30,196,212

お知らせ

鈴鹿高専青峰同窓会の皆様へ

鈴鹿高専は皆さんのUターンを支援しています

本校の卒業生は約1万人となり、全国の企業、団体等で活躍されています。しかしながら、様々な事情で三重県へのUターンを考えておられる方もあるのではと、推察いたします。

鈴鹿高専では、鈴鹿高専テクノプラザ(注1)を窓口として、卒業生のUターン支援を行っております。テクノプラザには、卒業生の堀部と元教員の桑原の2名のコーディネータが在籍し、皆さんのご相談に応じております。Uターンを考えておられる卒業生の皆さん、まずは、コーディネータに声をかけてください。

三重県では県外への人材流出が見受けられ、約150社のテクノプラザ会員企業でも即戦力の技術者が不足

しており、卒業生のUターンを切望しています。会員企業の多くはOB・OGが働く企業ですので、安心して仕事に取り組めると思います。

職業安定法に基づく実務は職業紹介専門企業が行います。コンサルティングを通じて、地域、職種はもちろん皆さんの技術経験、性格の理解から始め、不安なく転職頂けるサポートを準備しております。

会員企業には中京地区企業もありますし、シニア専門職を求めている企業もあります。テクノプラザホームページに求人情報の詳細を掲載しているの、時々、ご確認頂けますと幸いです。

両親の老後が心配だし、田畑の管理も…

都会の競争やストレスより、技術を生かした仕事。

〈テクノプラザホームページ〉

エントリー:登録

オンライン面接

面接のスキルアップ

企業や職種の分析

企業・職種の決定

企業面接

入社後のカウンセリング: 転職企業への定着支援

地元の転職専門サイトでの登録となります。
地元企業に詳しい転職サイトが不安のない転職に寄り添います。

- 適職診断、自己理解
- 履歴書、自己PR書の書き方、添削指導
- 貴方に代わって条件交渉
- カウンセリングにより、その他の心配ごとにも対応します。

人材企業の支援のもとで不安なく転職

鈴鹿高専テクノプラザ ホームページ <https://www.suzuka-ct.ac.jp/facilities/techno-plaza/>

注1: 産学官連携でものづくり支援 ~鈴鹿高専テクノプラザ~

2013年(平成25年)に産学官の連携を構築し、製造業の課題に寄り添った教育・研究を振興し、地元企業の発展に寄与すべく「鈴鹿高専テクノプラザ」を設立し9年目を迎えています。現在は、企業会員151社、特別会員15団体、個人会員19名です。また、テクノプラザの活動を更に充実させるために、企業会員及び個人会員の増強を進めています。

卒業生の皆様には、関係企業の会員登録にご協力頂ければ、共同研究や人材の紹介を通じて共存共栄できるかと存じます。

お問合せ・お申込みは、下記連絡先までお気軽に!

鈴鹿工業高等専門学校 総務課(鈴鹿高専テクノプラザ事務局)
TEL: 059-368-1717 E-mail: technoplaza@jim.suzuka-ct.ac.jp
コーディネータ連絡先/堀部: stillwater248@yahoo.ne.jp 桑原: hiquwa@gmail.com